

国内外の研究者ら関心

金沢の「国際宇宙展示会」

大樹町など取り組み紹介

【金沢】大樹町と十勝圏航空宇宙産業基地構想研究会(会長・砂川敏文)帯広市長、NPO法人北海道宇宙科学技術創成センター(HASTI)、札幌市は、金沢21世紀美術館(金沢市)で開催中の「国際宇宙展示会」(組織委員会など主



導の宇宙開発や関連事業をPRしている。同展示会は「第25回宇宙技術および科学の国際シンポジウム」(5-11日・金沢市観光会館)と並行し、今月4日から11日まで開かれている。会場には、HASTI

Cなどが開発した無火薬式小型ロケット「CAMUI」の実物大モデル(全長3.7メートル)や北海道衛星株式会社(本社大樹町)の人工衛星「大樹」の模型などを展示。それぞれの取り組みをDVDで上映し、訪れた国内外の研究者や家族連れなどの関心を集めている。6日までは現地に国際宇宙展示会を紹介しているCAMUIロケット実物大モデルなどの

滞在した町役場総務企画課の黒川豊主査は「展示会には15団体が集まったが独自性のある道内の取り組みは特に注目されていた」と話していた。

また、3月から延期しているCAMUIロケット打ち上げは7月30日に大樹町内で行う日程がほぼ固まった。(松村寛裕)